

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔雑 貨〕（店長）	販売量の動き	・10月1日からのたばこ増税を前に駆け込み需要が増え、にわか特需となっている。ただし、10月からの落ち込みを考えると喜んでられない。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・猛暑の続いた月前半は売上が低迷していたが、後半からは秋物衣料が売れ出したほか、ブランド宝飾品などの引き合いも急に増えている。
		スーパー（経営 者）	それ以外	・今月は値上げ前のたばこ特需と猛暑効果で売上が大きく底上げされている。猛暑で出遅れていた果物やさんまなども、ようやく値ごろとなって売れているほか、野菜なども値上がり価格に慣れた客が買い始めている。その一方、加工食品類の数量は伸びているものの、1品単価の低下で厳しい状況が続いている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・残暑で秋物衣料の売上が前年よりも3～4割ダウンしているが、野菜や果物の相場が上がっているほか、エアコンやエコポイント制度で薄型テレビの売行きも依然堅調なため、トータルでは好調な結果となっている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・野菜の相場高を利用した販促や、たばこ増税前のまとめ買いもあり、食品を中心に来客数が増えている。残暑で衣料や住関連はやや苦戦しているが、食品の好調が全体を押し上げている。
		スーパー（広報 担当）	お客様の様子	・今月は猛暑の影響が残り、衣料品では単価の高い秋物商品が売れずに苦戦したものの、食品、住関連では追い風となっている。全体的には来客数が3か月前よりも良くなっているなど、上向き傾向となっている。
		スーパー（企 画）	お客様の様子	・7月下旬に大きく気温が上がり、今月下旬には急に涼しくなるなど、気温の変化が激しいことで季節商品の動きが活発になっている。景気が良くなったというよりも、季節や気温の変化による影響が大きい。
		スーパー（社 員）	販売量の動き	・今年の夏は最後まで猛暑が続いたため、冷菓や飲料、調理に手間のかからない商材の動きが活発となっている。来客数も新店舗やイベント実施店舗を中心に堅調であり、1品単価も安定しているため、販売量の伸びが売上増加につながっている。
		コンビニ（店 長）	単価の動き	・10月からのたばこ増税に備えたまとめ買いで、売上が急増している。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・テレビの1品単価は前年よりも落ち込んでいるものの、エコポイント制度の特需で販売台数は伸びている。1品単価の低下は、前年のエコポイント制度導入時に大型テレビの需要が大きく伸びた影響である。一方、3Dテレビの発売で需要拡大や単価の上昇につながっており、売上の伸びる要因となっている。
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・中間決算とエコカー補助金の終了が重なり、今月は購入に踏み切る客が増えている。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・外食では、価格以外のプラスアルファの価値を提供することで来客数の増加につながっている。客の間では、日常的な食品の購入と外食の使い分けがより鮮明になっている。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・前月は2年ぶりに目標売上を達成し、今月も好調に推移している。店舗別や既存店ベースでみると課題はあるものの、来客数が目標を上回っている。
		通信会社（社 員）	販売量の動き	・新規客が少しずつ増えてきている。
	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は11,351円と、3か月前の10,810円に比べるとやや良くなっている。	
変わらない		商店街（代表 者）	来客数の動き	・猛暑の影響で来客数が減少しており、秋物衣料の動きも鈍い。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・月中旬までは猛暑で客足の引きが早く、売上も悪かったが、月後半に秋らしくなっただけからは前年並みの売上となっている。

一般小売店〔時計〕（経営者）	販売量の動き	・客の平均年齢が高いため、猛暑で体調を崩しているという話をよく聞く。時計は生活に直接関係するものではないので、大きく需要が変化するものではないが、販売量は少ない。
一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・気温が急激に低下しているものの、来客数の伸びない日が続いている。
一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	来客数の動き	・月前半の残暑により、客足の伸びが前月とほとんど変わらない。
一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑で夏物衣料が動き出したときには、メーカーの在庫は既になかった。小売店だけでなく、メーカーも在庫をかなり絞っていることを考えると、衣料業界の景気は依然としてかなり悪い。
一般小売店〔花〕（店長）	販売量の動き	・客の買物は最小限であり、非常にシビアな状況となっている。
一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・物の値段が上がリ、動きがますます悪くなっている。
一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	来客数の動き	・9月に入って暑さも多少和らいたため、レジャーを楽しむ人が増えると期待していたが、厳しい残暑で予想を下回る動きとなっている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・長引く残暑の影響などで一部商品の価格が高騰しているほか、円高や社会情勢の変化など、あらゆる面で経済や消費に悪影響が出ている。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・秋物衣料が大苦戦しているものの、景気の影響が強烈な残暑の影響かは判断が難しい。ただし、リニューアルオープンした化粧品や時計売場は、予想以上に売上が伸びている。
百貨店（企画担当）	お客様の様子	・ようやく残暑も落ち着き、秋物商品にも動きが出てきたが、今のところは限定的である。その一方、中国人観光客については尖閣問題の影響もほとんどなく、好調が続いている。
百貨店（企画担当）	来客数の動き	・秋物衣料の動きが悪く、食品も生鮮品が不振となっている。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・猛暑が終わって季節が秋らしくなった影響もあるのか、直近の時計関係の催事では50万～100万円程度の商品にかなり動きが出てきている。
百貨店（店長）	販売量の動き	・月中旬までの猛暑がかなり響いており、秋物商戦の立ち上がりが遅れている。
百貨店（サービス担当）	来客数の動き	・西日本で初となる観測衛星はやぶさの展示や物産展により、今月は来客数が増加している。全体的には前月よりも好調となったものの、秋物商品は残暑の影響で苦戦している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・食品を中心とした日用品は前年並みの推移であるが、たばこは値上げ前の駆け込み需要が発生している。一方、猛暑特需が落ち着いてきたことで、衣料品の売上がダウンしている。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数、売上共に、ここ3か月は前年比で90～93%の推移となっている。
スーパー（経理担当）	お客様の様子	・月中旬からの気温の低下で、動きの全くなかった秋冬物の衣服もようやく売れ出している。食品でも猛暑の反動により、鍋シーズンの始めにもかかわらず、関連商品の売行きが好調である。
スーパー（管理担当）	販売量の動き	・購買点数がなかなか上向かない。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・これまで雨の降った場合は客足が鈍っていたが、雨の日だけの値引きサービスを始めたところ、通常よりも客が増えつつある。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣オフィスビルの空室率が高いままで、周辺の購買人口が回復しない。
コンビニ（広告担当）	それ以外	・猛暑で飲料やアイスといった季節商品は好調であったが、売上に占める割合の大きい米飯系の商品はあまりの暑さで不調となっている。また、青果品や関連商品の値上げが進んでいることで、消費マインドが悪化している。
家電量販店（経営者）	お客様の様子	・客の低価格志向、必要な物以外は購入しない傾向は根強い。消費者の先行き不安を払しょくするような要素は見当たらない。

乗用車販売店 (経営者)	来客数の動き	・前月の広告効果で来客数が若干増加し、1店舗当たりの販売台数も前月の13.2台から19.9台へと増えている。
乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・相変わらず世の中の空気が重く、来客数が減っている。
住関連専門店 (店員)	お客様の様子	・例年よりも気温の低下が遅く、秋冬商品の苦戦で売上目標を下回る日が続いていたが、ここ最近では気温が急に下がったことで目標が達成できている。ただし、必要になってから来店する客が多いように感じるため、楽観視はできない。
その他専門店 [宝石](経営者)	お客様の様子	・株安や円高傾向に変化がなく、客の不安感が払しょくされていない。中国との問題も悪化しているため、大変な状況となっている。
その他専門店 [食品](経営者)	販売量の動き	・前年並みの売上が続いている。
その他専門店 [宝飾品](販売担当)	お客様の様子	・宝飾品よりも、イミテーションやネイル、バッグ、アクセサリーといったファッション雑貨の手ごろな商品に動きがみられる。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・お酒は家で飲むという家飲みの客が減らず、来店数はまだまだ上向いていない。外食の機会が減り、消費者には外食1回当たりの価値が貴重になっているため、少し単価の高い商品や店舗に注目が集まっている。
スナック(経営者)	来客数の動き	・前月の散々な結果に比べれば多少良かったが、活気があるとは言い難い。
観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・平城遷都1300年祭の恩恵により、売上は以前よりも良くなっている。ただし、料金の低下は依然として続いており、今のところは脱却できていない。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・夏が終われば旅行の動きが増えるかと期待していたが、来館や問い合わせが少ない。
観光型旅館(経営者)	単価の動き	・客の入込状況は前年よりも悪いが、客単価は2、3か月前と変わらない。
観光型旅館(団体役員)	来客数の動き	・前年の3連休を含む1週間の来客数を比較すると、今年は73%程度にとどまっている。
都市型ホテル (マネージャー)	来客数の動き	・宿泊部門は前年を若干上回る稼働率で推移しているが、レストランは全体的に厳しい状態が続いている。また、パーティなどの法人需要も上向く気配がない。
旅行代理店(店長)	来客数の動き	・尖閣諸島の問題で、中国方面への観光が減少する恐れが大きい。
旅行代理店(広報担当)	お客様の様子	・残暑で秋のプランがなかなか売れず、ここへきて少し伸びてきたところに尖閣諸島の問題が起き、客が敏感に反応している。中国向けの旅行のほか、中国人客の訪日にも少し影響が出てきている。
タクシー運転手	お客様の様子	・京都市内でタクシーを流していても、見掛けるのは空車ばかりであるなど、厳しい状況に変化はない。
タクシー会社 (経営者)	お客様の様子	・猛暑でタクシー利用は増えたが、法人によるチケット利用は前年からダウンした状態が続いている。個人客の財布のひもは固く、企業による経費節減の動きも相変わらず続いている。
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・ゲームセンターの売上前年比は、横ばいか若干上向いている。
パチンコ店(店員)	来客数の動き	・来客数が伸びているわけでもなく、減っているわけでもない。
競輪場(職員)	販売量の動き	・売上、来客数、客単価共に回復の兆しがみられない。
その他レジャー施設 [イベントホール](職員)	来客数の動き	・最近は団塊世代を対象とした音楽イベントが増えつつあり、利用状況も好調に推移している。
その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設](企画担当)	来客数の動き	・天気の良い日が多かったため集客状況は堅調であるが、海外からの観光客が支えている感がある。新施設も開業したが、爆発的な集客にはつながっていない。
美容室(店員)	来客数の動き	・パーマやカラーといった高額メニューのオーダーが増えているが、客の来店周期が伸びているため、全体的に大きな変化はない。

	その他サービス [ビデオ・CD レンタル] (エ リア担当)	販売量の動き	・前年が悪かったにもかかわらず、レンタル売上は前年を下回っている。CD販売の前年比も悪化傾向が更に強まっている。
	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・好調物件は割安感のある物件に限られるなど、本格的な市況回復には至っていない。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームでは、来場者の動きが止まることはないものの、にぎわうこともない状況が続いている。
	住宅販売会社 (総務担当)	お客様の様子	・住宅ローン減税、住宅版エコポイントといった支援制度の延長に対する様子見も含めて、客が今後の動向を見極めている感がある。
	その他住宅 [展 示場] (従業 員)	来客数の動き	・9月の住宅展示場の来場者数は前年比で1割減となっている。景気の影響というよりも、猛暑が来場者数に悪影響を及ぼしている。
	その他住宅 [情 報誌] (編集 者)	お客様の様子	・個人消費に対する円高の影響は今のところ小さいが、これから企業業績に影響が出れば、タイムラグを経て雇用や賃金環境にも影響が広がってくる。
やや悪く なっている	一般小売店 [精 肉] (管理担 当)	販売量の動き	・自動車の駆け込み需要やテレビ、エアコンの購入など、食品以外で大きな買物が集中している。消費全体が悪いわけではなく、消費の分布の変化によって食品が悪化している。
	一般小売店 [衣 服] (経営者)	来客数の動き	・商店街の通行量が減り、来客数の減少につながっている。
	一般小売店 [自 転車] (店長)	販売量の動き	・例年、春と秋は忙しくなるが、今年は来客数、販売量共に減少している。まだ景気の低迷が続いている感がある。
	一般小売店 [菓 子] (営業担 当)	販売量の動き	・今月は秋の彼岸と月見、敬老の日、祝日が重なり、関連の買物がひとまとめになった結果、販売店からは売上が相当落ちているとの声が多く聞かれる。
	百貨店 (売場主 任)	販売量の動き	・月中旬以降の気温の低下で、秋冬商材の動きが活発になっているものの、来客数、販売量は依然として前年を下回っている。
	百貨店 (売場主 任)	お客様の様子	・残暑で衣料品の動きが鈍いと予想していたが、気温が低下した後も、秋物衣料に対する客の反応は鈍い。景気に対する不安からか、買物姿勢が慎重となっている。
	百貨店 (売場主 任)	お客様の様子	・気候の影響で秋物商品の動きが悪く、ここ最近では一番の苦戦となっている。不透明な経済情勢もあってファッションを中心に消費全体が鈍化しており、ビジネス関連が苦戦を強いられているほか、比較的好調であったカジュアル、スポーツ関連の苦戦も目立つ。
	百貨店 (マネー ジャー)	販売量の動き	・改装効果の続く期間も以前に比べて短くなっており、投資に対するリターンを得るのも難しくなっている。
	百貨店 (婦人 服)	販売量の動き	・月前半は残暑で秋物衣料や雑貨が大不振となっている。気温が下がり始めた中盤以降も急激な回復はなく、政治や経済、外交関係の不安もあり、消費意欲は低調なままとなっている。
	スーパー (経営 者)	お客様の様子	・今月も10日ごろまでは普通に売れていたが、12日ごろからは客の買物が買得品や特売品に集中しているほか、買い回りが多くなっている。
	スーパー (店 長)	来客数の動き	・残暑の影響が強く、季節衣料が大苦戦している。
	コンビニ (経営 者)	来客数の動き	・客1人当たりの購入単価は少し上がっているものの、急に涼しくなったことでアイスクリームや飲料水の購入は減少している。
	コンビニ (店 員)	販売量の動き	・今月も猛暑が続く、パンや弁当の売上が落ち込んでいる。
	衣料品専門店 (営業・販売担 当)	販売量の動き	・秋冬物スーツのオーダーが非常に少ない。
	住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・サマーセールのシーズンが終わり、一気に受注が減っている。本来は定価品の販売で利益を上げる時期であるが、逆に悪化するという状況が続いている。価格競争が激化し、低価格志向もすっかり根付いているため、脱却は非常に困難である。

	その他専門店 [医薬品] (経営者)	お客様の様子	・前年の新型インフルエンザの流行を教訓に、学校などでは消毒液やマスクを常備するための購入が増えている。そのほかの商品は、酷暑で季節商品の購入が増えたこともあり、慎重な買物姿勢となっている。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・明確な理由は分からないが、前月よりも売上、来客数が確実に減少している。例年の動きとは異なるため、スタッフ一同とまどっている。ただし、出入りの業者からは、どの店も同じように落ち込んでいるとの声が聞かれる。
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・たばこのまとめ買いなどで出費が重なり、外食の機会が減ったのか、男性の客足が減っている。
	一般レストラン (店員)	来客数の動き	・ランチに1人で来店する客が、以前に比べると少なくなっている。
	一般レストラン (経理担当)	単価の動き	・猛暑の影響で来客数は前年以上となっているが、客単価は伸びていない。
	観光型ホテル (経営者)	単価の動き	・今月から団体客の増えるシーズンに入ったが、旅行代理店からの要求は料金の値下げに関するものが大半である。また、今年はシルバーウィークがなかったため、月後半の入込客数が伸びていない。
	都市型ホテル (支配人)	販売量の動き	・企業業績、個人消費共に、3か月前よりも悪化している。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊は当施設を含む広い地域で客が減少し、全ランクの施設で値下げ販売が激しくなっている。特にビジネス利用は大きく減少しているが、値下げをしても受注は増えていない。宴会は特殊な会合の受注で前年を上回ったものの、既存客ベースでは大幅な減少が続いている。
	都市型ホテル (総務担当)	単価の動き	・客室稼働率はほぼ前年並みであるが、客単価は前年を1割強下回っている。また、レストラン部門でも平均客単価は前年を下回っている。
	都市型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・宿泊は高い稼働率が継続しているが、客室単価の値下げが常態化しており、売上は前年並みにとどまっている。一般宴会も、悪かった前年よりは良くなっているが、企業による自粛で予約は例年以上に厳しい状態が続いている。食堂に関しても、月前半に来客数が激減し、月後半にもカバーできない状態となっている。
	旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・円高メリットがあるにもかかわらず、今月は海外旅行の受付が全く伸びず、前年を大きく下回っている。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・タクシーで市内や郊外を回っているが、特に郊外は閑散としており、繁華街だけがにぎわっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・盆過ぎ以降、客足の減少が顕著となっている。夜になっても電車から降りてくる人の数、タクシーに乗る人の数が減っているほか、昼も同じ傾向がみられる。
	通信会社 (経営者)	単価の動き	・携帯電話の大手販売業者の前期決算が良かったため、通信会社は今期に入って販売手数料を抑えてきている。その影響が販売粗利の悪化という形で徐々に出てきている。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・猛暑により、客の間で外出を避ける傾向が強まっている。
	美容室 (店長)	来客数の動き	・客の動きが悪く、今月の売上は前年比で2割減少している。
	その他サービス [学習塾] (経営者)	来客数の動き	・生徒数が若干減少傾向で推移している。
	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・不動産需要がまた落ち込んできている。特に、新築物件が供給過多となり、価格競争が始まりつつある。
悪く なっている	商店街 (代表者)	お客様の様子	・猛暑続きで歩行者が減り、来客数、売上が減少している。
	商店街 (代表者)	販売量の動き	・猛暑のため来客数が減少し、売上に大きな影響が出ている。
	一般小売店 [菓子] (経営企画担当)	販売量の動き	・6月と9月の売上前年比を上位5店舗の平均でみると、6月が91.0%で、9月が84.3%となっている。状況は非常に悪く、過去にない落ち込み方となっている。

	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・厳しい残暑で、衣料品の売上前年比はボリュームブランドから高級ブランドまで2けた減となっている。気温の急低下で23日からは前年の売上を上回っているが、中旬までの不振をカバーできず、月全体では1けた台のマイナスとなっている。	
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費者の節約志向が2、3か月前よりも更に強まっている。買上点数、来客数は維持できているが、1品単価の下落が激しい。必要な物と特売品だけを買う動きが目立っている。	
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・8、9月は猛暑で秋物商品が全く売れず、夏物の特売でも単価の安い商品しか売れていない。売上は前年に比べて4割ほど悪化している。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・残暑が厳しく、なかなか秋物商戦がスタートできなかったが、ここへきてようやく動き出している。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了に伴い、来客数は減少している。ある程度予測はしていたが、それ以上に悪化している。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了による悪化は予想どおりで、受注台数は全体で前年の46%と大幅減となっている。	
	高級レストラン（支配人）	販売量の動き	・来客数は若干増えているものの例年ほどの動きはみられず、客単価、販売量は悪化している。	
	観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・集客のために前月後半から様々な販促を行っているが、客が全く動かない。急に動きの止まった感がある。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・秋らしい気候になってからは、予想どおり乗客が激減している。企業の利用も相変わらず少ない。	
	ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・前年のシルバーウィークは大変盛り上がったが、今年の連休は記録的な猛暑の影響もあり、厳しい結果となっている。	
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・成約率が極端に落ち込んでいる。	
企業 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・エコカー補助金の終了に伴う駆け込み需要で、ハイブリッドカー向け樹脂の販売量が好調に推移している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・雰囲気はあまり明るくなく、前月比では横ばいと本格的に良くなっているわけではないが、3か月前に比べると景気は良くなっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先からの発注量が、少しであるが増えている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・製造業と、それに関わる派遣会社の広告が増えてきている。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・非常に暑い日が続いたため、タオル製品の売行きが良い。景気は低迷しているものの、必需品を購入する動きは鈍っていない。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・猛暑で家庭での火を使った調理が減り、ソースの出荷量が激減したため、売上は低調となっている。また、円高で輸入原料の価格が下がると期待していたが、異常気象で収穫量が減り、逆に値上げの話が出てきている。
		食料品製造業（経理担当）	それ以外	・例年9月に入ると販売量が上向くが、今年は酷暑が長引いたため、売上が前年の水準を20%下回っている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	競争相手の様子	・同業者の組合で集まっても、各社からは全体的に忙しいという声しか聞かれない。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全般的には良くなっているが、まだ悪化が続いている得意先もある。時代の変化にいかに対応できているかにより、企業ごとの格差が広がりつつある。
		金属製品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格は比較的安定しているが、受注価格は相変わらず厳しく、採算割れの案件が増えている。
		金属製品製造業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上の低迷に加え、材料価格が上昇、販売価格は低下するなど、ダブルパンチとなっている。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社には原発関連の顧客が多いが、相変わらず設備投資は活発である。3か月前に比べても活発な状況が続いている。	

	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・大手企業は新製品開発にも非常に前向きで、厳しい状況のなかでも予算を何とか確保している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・世界的に電子書籍関連の動きが増えているため、今は好調に推移している。
	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・売上全体では前年比で5%ほどの伸びが続いている。徐々にマンションの建設が増えつつあるが、内装やクーラーの工事は来年度で、照明などはその後の取付作業となるため、今期の売上にはつながらない。
	電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注価格や販売価格の動き	・薄型テレビやエアコンなどの動きは堅調であるが、1品単価が下落するなど上向きとは言い難い状況である。
	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量などの全体的な状況に大きな変化はない。
	その他製造業〔履物〕（団体職員）	受注量や販売量の動き	・依然として受注量は増えておらず、景気が上向いている感はない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・民間関係の受注量は増えつつあるが、価格競争は相変わらず厳しい。一方、官庁関係の工事は減少が続いている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客からの問い合わせは増えているが、販売単価が下がりつつあるため、全体的な売上は伸びていない。
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・1件当たりの受注価格は、相変わらず低めである。
	輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・例年は9月決算で事務機器の荷動きが良くなるが、今年は前倒して動きがあったため、例年ほどは荷物が増えていない。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・読者数は何とか維持しているが、折込広告の動きが全く回復しないため、収益は前年よりも悪くなっている。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は広告出稿について前向きな顧客企業がほとんどない。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・小売業の顧客企業では不振が続いているが、飲食業やサービス業では新規出店もみられるほか、製造業でも通常の設備投資は続いている。ただし、期待したほどの売上増加にはつなげていない。
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・A P E C 関連で資料作成の依頼が増えているほか、学会なども活発に開催されており、受注件数は確実に増えている。ただし、秋物フェアなどの販促物については、残暑の影響で動きがやや鈍い状況である。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先が経費削減を続けているため、受注金額は非常に厳しい水準となっている。
	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・引き合いや見積依頼などが非常に少ない。
やや悪くなっている	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・綿糸価格が高騰したままであるが、受注が減少しているため販売価格に転嫁できず、厳しい状況となっている。
	繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注数量が減少しているほか、販売の中心である催事には社員が出向き、社員が足りない場合は派遣社員を利用しているため、販売コストもかさんでいる。
	出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・全体的には下降傾向の進んでいる感がある。ただし、得意先には上向いている企業が数社あり、特に格安ホテルは中国や東南アジアからの観光客をターゲットに成功している。
	化学工業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・猛暑で油脂の販売量が低下している。食品ではアイスクリームや飲料は絶好調となった一方、菓子類やパンの売上が減少した。菓子でもゼリー類は好調であったものの、焼き菓子類は不調となったため、油脂の売行き悪化につながっている。
	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円高の影響で、海外工場では現地調達が進んでいる。
	金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・円高やエコカー補助金の早期終了が影響しているのか、予想よりも早く売上が落ちている。

		金融業（支店長）	取引先の様子	・取引先の中小建売業者では、オープンハウスへの来場者数が減っている。以前は土日で10組程度の見学があったが、チラシを入れても反応が悪くなっている。先行き不安により、様子見の動きが非常に強まっている。
		経営コンサルタント	それ以外	・地元の状況をみていると、様々な業種でここ1か月の間に4件の倒産が起きている。
	悪くなっている	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・市内の貸事務所、貸店舗共に空室が増えつつあり、募集をかけても新たな入居者が決まらない。近隣の大都市で新築未入居の物件が増えている影響もあるため、近隣市と同様に半年から1年間の家賃無料サービスが必要になってきている。
		その他サービス [自動車修理] (経営者)	受注量や販売量の動き	・顧客の数が日に日に減っている感がある。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は6か月連続で前年を上回っている。これまでは正社員求人以外の増加が中心であったが、直近では正社員求人も20%の大幅増となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で4か月連続の増加となっている。特に、エコカーや省エネ家電関連の企業で増加が続いている。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・日雇求人数の前年比がマイナスからプラスに転じつつある。
		民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・採用者数が前年比で30%程度伸びたほか、求人企業数、求人件数共に3か月前よりも10%程度増えている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・前月ごろから良くなると予想していたが、円高で企業の動きが慎重になっている。ただし、派遣を嫌いつつも必要だという認識は強いいため、ある程度の需要はみられる。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・求人の前年比は緩やかに伸びているが、これは前年の7～11月に大きく減少した反動増による部分が大きい。求人の水準自体は3か月前とほぼ変わらない。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・中間決算月でもあり、取引先からの求人依頼は増えている。ただし、退職者の補充や、競合他社スタッフの契約終了後の補充といった依頼がほとんどで、下半期に向けた増員依頼はほとんどない。
		人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・採用が決まるまでに時間が掛かるほか、競合相手も多い。
		新聞社[求人広告]（担当者）	それ以外	・特に広告業界には追い風も吹いておらず、前年比で85%と悪いままである。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・とりあえず非正規社員として就職したものの、再び正社員で仕事を探す人が増えており、再離職者の数が増加している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者の内訳をみると、無業者が増えている一方、離職者が減少、在職者も増加から横ばいに転じている。雇用情勢の回復が遅れているため、離職や転職をせずに会社にとどまる傾向がある。また、パートへの求職では無業者の増加傾向が続いているなど、家計補助的な就業希望者が増えている。なお、企業は依然として正規雇用に慎重で、パート求人が大幅に増えている。
		民間職業紹介機関（大学担当）	求人数の動き	・来年の新卒者の就職状況は悪いまま停滞している。今後の企業の採用動向次第では、危機的な状況となる。
		学校[大学]（就職担当）	採用者数の動き	・採用情報を求めて企業訪問を精力的に行っているが、求人は内定辞退の補充などが中心となっている。先行きに明るさが感じられないため、将来を見越した採用は少ない。
	やや悪くなっている	新聞社[求人広告]（営業担当）	求人数の動き	・求人広告が低迷しているというよりも、企業の動きが明らかに変わりつつある。大半の企業は人事政策による経営効率の改善を徹底しており、業務拡大に伴う人材確保は行っていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前月から一転して、求人数が減少している。求職者も少し減少気味であるため、就職件数の減少につながっている。

	学校 [大学] (就職担当)	採用者数の動き	・新たな求人数が前年比で約15%減と厳しい状態が続いており、改善されていない。
悪く なっている	-	-	-